第６学年２組　　総合的な学習の時間授業案

平成３０年１０月１９日
授業者　佐々木　章仁

１　単　　元　　遠くの親せきより，近くのアミーゴ　～飯村小学校で共に生きよう～

２　単元目標

（１）　友達の母国について調べることで，外国の文化や習慣への理解を深め，外国籍児童がすごしやすい学校にするために情報を活用することができる。　【知識及び技能】

（２）　外国について調べたり，外国人と交流をしたりすることで，多様な生き方や考え方があることを知り，自分と異なる考えを認めることができる。　【思考力・判断力・表現力】

（３）　外国籍児童がすごしやすい学校にするために，自分ができることを考え，行動に移したり，周りに働きかけたりすることができる。　【学びに向かう力，人間性】

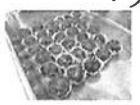
３　単元について

本学級の子どもたちは，学校の最上級生として学校を引っ張りたいという気持ちをもっている。委員会活動でも自分の仕事に責任をもって行うことができる子が多い。５年生までの総合的な学習の時間で，飯村校区について学習する中で，飯村校区をよりよくしたいという気持ちが高まってきている。本学級には３名の外国籍児童がいる。３名とも生まれも育ちも日本であり，日本人の友達も多いが，人前に立つことに抵抗があるようで受動的な姿が見られることもある。本単元を通して，彼らが自己有用感を高め，主体的に行動する姿が見られることを願っている。日本人児童にとっては，外国籍児童が学級にいることは当たり前になっている。ところが，単元の前に行ったアンケートでは，日本人児童が友達の母国のことをほとんど知らないことが明らかになった。そこで，外国籍児童が日本の生活に合わせるだけでなく，日本人児童も外国のことを理解し，歩み寄るように関わってほしいと考えた。わからない言語に囲まれた中で暮らすことの不便さに気づくことができれば，日本人児童は外国籍児童がすごしやすい学校にしたいと考えることだろう。互いの違いやよさを認め合いながら，共に生きていこうと行動できるようになってほしい。

平成 30 年現在，豊橋には 16,092 人という多くの外国人が住んでおり，その数は全国的に見ても上位である。飯村校区でも外国籍児童の数が増えており，平成 22 年度には 28 名だった外国籍児童が，現在は 79 名と急激に増加している。来日したばかりという児童も増え，言葉も学校のきまりもわからない不便さの中で生活をしている。日本人児童がその現実に気がつけば，これまで以上に外国籍児童のことを思いやり，彼らが生活しやすいように力を貸したいと考えることだろう。これからの社会はグローバル化がますます進み，子どもたちは多種多様な人たちと関わって生きていくことになる。自分とは異なるさまざまな生き方や考え方を認める力が求められる。そのために，子どものうちから他国の生活習慣や文化を知り，自分と違う考え方や生き方をする人たちへの理解を深めていくことは大きな意味がある。これからの社会を生き抜くために必要となる他者の生き方を認めたり，問題を解決しようと協働的に行動したりする力を育むことに適した単元である。

本単元では，「知る⇒体験する⇒行動する⇒引き継ぐ」という４つの局面を設定した。外国に関する知識がほとんどない子どもたちであるので，「知る」では，ゲームをしたり，20 年近く日本に住んでいるクリスさんに出会わせたりすることで外国への興味をもてるようにしてから，調べ学習を行う。「体験する」では，外国人と関わり，外国の文化を直接体験する“体験ツアー”を設定することで，日本人児童がさまざまな価値観に触れながら，言葉がわからない不便さに気づけるようにする。外国籍児童には，日本人児童に教えたり，通訳したりしようとする主体的な姿を期待している。“体験ツアー”を通して，言葉がわからない困難を経験することで，日本語に囲まれて日常生活を送る外国籍児童の実態に気づき，彼らのために何かしたいと考えることだろう。そこで，「行動する」では，外国籍児童がすごしやすい学校にするために，全校に向けて活動する“アミーゴキャンペーン”を行う。「引き継ぐ」では，キャンペーン終了後，全校から集めた感想や意見をもとに，成果と今後の課題を明らかにしたまとめの新聞を作成する。この新聞を５年生に引き継ぐことで，来年度につながる継続的な取り組みになっていくようにしたい。本単元を通して，協働的に学び，自分とは異なる考え方や生き方を認め，外国籍児童と共に生きようと行動に移す力を高めていきたい。

4　単元構想図（４５時間完了：本時２９／４５）

※日本人児童への教師支援	《日本人児童》	《外国籍児童》	※外国籍児童への教師支援
※単元に入る前の児童の実態を明らかにするために，外国人のイメージを問うアンケートをする。 ※日本人児童の外国への興味を高めるために，豊橋に住むブラジル人，フィリピン人の話を聞く場を設定する。 **※調べ学習の観点を整理するために，ブラジルに関する小物が詰め込まれたブラジルボックスを調べる。** ※言葉が異なる環境ですごす外国籍児童の気持ちを想像できるよう，ブラジル体験ツアーを行う。	**ブラジルのことを知ろう②** 〈学校〉 ・違いを知れておもしろい ・日本とは全然違うんだね ・他の国の話も聞きたいな 〈ポルトガル語〉 ・「センタアキ」は「ここに座って」という意味だね ・もっともっと知りたいな **・外国のことを知るっておもしろいね**	・学校は日本と違いがあるね ・またみんなにポルトガル語を教えたいな **・次の授業が楽しみだな**	※単元に入る前の児童の実態を明らかにするために，母国について問うアンケートをする。
知る	**クリスさん，リンリンさんに聞いてみよう③** ・フィリピンの学校の話も聞けたよ ・料理はおいしそうだし，景色はきれいだったね ・仲良くなるために知ることが大事だと言っていたね **・ブラジルやフィリピンのことをもっと知りたいな**	・フィリピンの話は初めてだよ ・ブリガデイロが出てきたね **・ブラジルのことを詳しく知りたいな**	※母国について知らないことがあると気づけるように，ブラジルで生活していた方の話を聞く。
	ブラジルやフィリピンのことを調べよう⑧ 〈ブラジル〉 ・ポンデケージョがおいしいよ ・時間を守らないのが普通だよ ・ブラジルにも漫画があるよ ・日系人がたくさんいるよ 〈フィリピン〉 ・海がとってもきれいだよ ・「おはよう」は「マガンダンウマーガ」と言うんだね ・日本が占領した歴史があるよ **・ブラジルの生活を体験してみたいね**	〈ブラジル〉 ・お母さんから時間に遅れる人が多いという話を聞いたよ ・家でも靴を履くって言っていたよ **・ブラジルに行ってみたいな**	※調べ学習の観点を整理するために，ブラジルに関する小物が詰め込まれたブラジルボックスを調べる。 ※外国籍児童が主体的に行動できるように，ブラジル体験ツアーを行う。
※言葉が違っても遊びは楽しいと気づけるようにするために，ブラジル人講師を招き，遊びを教えてもらう。 ※ブラジル人の親しみやすさに気づけるよう，ブラジルの食材を扱う店で買い物体験をする。 ※お菓子でも外国と日本では，味の好みが異なることに気づくために，ブラジルのお菓子のブリガデイロをつくる。 ※外国語の習得が難しいことに気づくために，ポルトガル語を覚える。 ※日本語に囲まれてすごす外国籍児童の気持ちに気づかせるために，日本語を一切使わない授業を行う	**体験ツアーⅠ　アドリアーナ先生と遊ぼう①** ・ポルトガル語だったけど，B子さんが教えてくれたからルールがわかったよ ・ブラジルの遊びも楽しいね ・ブリガデイロがおいしそうだったな **・ブリガデイロを食べてみたいな**	・日本語で説明してあげたよ ・みんなが楽しそうだったな ・ブリガデイロ，大好きだよ **・ブリガデイロをつくりたいな**	※外国籍児童の自己有用感を高めるために，ポルトガル語で遊びのルールを説明し，外国籍児童に通訳をするよう呼びかける。
体験する	**体験ツアーⅡ　お店でブリガデイロの材料を集めよう②** ・日本語が通じない所だとどきどきするね ・D男さんのおかげでちゃんと買えたよ **・ブリガデイロづくりが楽しみだね**	・すぐにわかったよ ・ポルトガル語で通訳したよ **・ブリガデイロづくりも任せて**	※言葉が異なっていても助け合えば目標を達成できることに気づけるようにするために，ブラジルの食材を扱う店で買い物体験をする。
	 **体験ツアーⅢ　ブリガデイロをつくろう②** ・甘いから１つで十分だな ・Eさんが通訳してくれて本当によかったな **・ポルトガル語を少しでもわかるようになりたいな**	・おいしくてたくさん食べたよ ・誕生日のときにつくるんだよ **・ポルトガル語も教えるよ**	※外国籍児童が通訳をして活躍することができるように，ポルトガル語でブリガデイロの作り方を説明する。
	体験ツアーⅣ　ポルトガル語を覚えよう② ・とても大変でくじけそうだったよ ・みんな合格できて，すごくうれしかったね ・次はポルトガル語を話してみたいな **・アドリアーナ先生とポルトガル語で授業をしてみたいな**	・漢字コンクールより簡単だよ ・いつでも私に質問してね ・一発で合格できたよ **・ポルトガル語だけで授業をするのが楽しみだな**	※外国籍児童の自己有用感を高めるために，友達に頼られたり，教えたりする立場を経験できるようにする。
	体験ツアーⅤ　ポルトガル語で授業を受けよう① ・全然わからなくて辛かった ・これが毎日続いたら嫌だ ・ジェスチャーや絵があると本当にありがたいね **・言葉がわからない中での授業は想像以上に大変だ**	・ポルトガル語だったらわかるよ ・またやってみたいな **・いつもの授業より楽しかった**	※ポルトガル語は読めないが会話をすることはできる外国籍児童のために，ブラジル人講師が問題文を読み上げる。

※日本人児童への教師支援

※これまでの学習をいつでも振り返ることができるよう，学習の流れがわかるような教室掲示を行う。

体験ツアーを振り返ろう②

《日本人児童》

・B子さんたちは日本語もポルトガル語もわかってすごい
・外国に行くと大変なんだろうな
・助けてもらったとき，すごくうれしかったな
・言葉がわからない子の気持ちがわかったよ
・外国籍の子たちがどう思っているか知りたいな

《外国籍児童》

・楽しかったからもっとやりたいな
・ブラジルをもっと好きになったよ
・私は日本語がわかるけどわからない下級生は大変かもしれないね
・下級生に聞いてみようよ

※外国籍児童への教師支援

※これまでの学習をいつでも振り返ることができるよう，学習の流れが分かるような教室掲示を行う。

アミーゴミッション　外国籍の下級生にインタビューしよう④

※外国籍児童への親近感を高めるために，好きなものや苦手なことも外国籍の下級生に聞くように促す。

・ゲームが好きなんだって。ぼくたちと同じだね
・困ったことはないって言っていたけど本当かな
・思ったよりも日本語が通じたからすごいなと思ったよ
・インタビューに行ったときは他のクラスの外国籍の子と一緒だったよ
・好きな教科は，図工や音楽など人それぞれだったね
・ほとんどの子が，嫌いな教科が国語だったよ
・日本語は難しいみたいだね

・外国籍の友達のために何かできることはないかな

※外国籍児童の自己有用感を高めるために，インタビュー調査の際，外国籍児童に通訳を依頼する。

行動する

わたしにできることは何だろう⑪　本時２／１１

※自分にできることかどうか判断できるように，○△カードを使い，友達の意見に対して意思表示をできるようにする。

〈アミーゴプロジェクト〉

〈助ける〉
・迷子にならないようにポルトガル語の標識をつくろう
〈話しかける〉
・ポルトガル語で挨拶しよう
〈遊ぶ〉
・放課に遊ぼう

〈フェスティバル〉
・集会でブラジルやフィリピンのことを楽しく紹介する
〈新聞〉
・外国籍児童の母国について書き，ぬくもりの径に掲示する

〈通訳〉
外国籍の６年生の通訳が必要な場合があるね

外国籍の６年生がいないときもあるよ

〈ガイドブック〉
・学校で使えるポルトガル語ブックをつくる
〈お助けカード〉
・指をさせば外国籍の子の気持ちがわかるようなカードをつくる

※自分にできることかどうか判断できるように，○△カードを使い，友達の意見に対して意思表示をできるようにする。

※外国籍の下級生への支援を今後も続けていくためには，いむれっ子全体の力が必要なことに気づけるように，「あなたたちが卒業したらどうするの」と問いかける。

※外国籍児童の自己有用感を高めるために，通訳が必要なときは６年生の外国籍児童に相談するようにする。

・アミーゴプロジェクト，がんばるぞ

アミーゴプロジェクトを振り返ろう②

※日本人児童が主体的に行動できるように，学級を解体して学年で興味別のグループをつくり，活動できるようにする。

〈下級生〉
・楽しかった
・ブラジルの挨拶を使ってみるね
・外国籍の子も友達だから大切にするね
・ガイドブック，ありがとう

〈先生〉
・日本の子が外国のことを知り，お互いに理解していくことが大切ですね
・フィリピンの子も増えているので，フィリピンのことを学ぶのも面白いと思いますよ

〈保護者〉
・６年生が１年間かけて一生懸命学習してきたことが伝わってきました
・地域にいる外国人とも協力していきたいと考えるようになりました

・いろいろな人に頑張りを認めてもらえてうれしいね
・これからも日本人と外国籍の子が協力できる学校にしたいね
・フィリピンのことは今の５年生が６年生になったときにやってほしいね

・これからもっといい学校にするために５年生に引き継ごう

※外国籍児童が主体的に行動できるように，学級を解体して学年で興味別のグループをつくり，活動できるようにする。

※外国籍児童の自己有用感を高めるために，「どのグループの活動にも力を貸してほしい」と伝える。

引き継ぐ

※日本人児童が達成感を味わったり，今後の課題を見つけたりできるように，全校児童や先生，保護者から感想をもらう。

５年生に引き継ごう④

・ポルトガル語で授業をしたら言葉がわからない大変さに気づいたよ
・来年はフィリピンのことも調べていってほしいな
・言葉が違っても友達になれるよ。わかり合おうとすることが大切だよ
・外国籍の子と共に生活していってね。よろしくね。

・日本の子に母国のことを知ってもらうって楽しいよ
・私たちも日本のことを理解することが必要だよ
・あなた達にもできることがあるよ

※外国籍児童が達成感を味わったり，今後の課題を見つけたりできるように，全校児童や先生，保護者から感想をもらう。

※外国籍児童への支援を継続できるように，今回の学習を新聞にまとめ，５年生に引き継ぐ計画を立てる。

※外国籍児童への支援を継続できるように，今回の学習を５年生に引き継ぐ。

これまでの学習を振り返ろう①

※自身の変容に目を向けるために，単元に入る前に行ったアンケートをもう１度行う。

・４月は知らなかったけど，友達の国について知ることができたよ
・日本にも外国にもいいところがあるよね
・これからもお互いを認め合って生活していこう

・前より学校が楽しいよ
・日本もブラジルも大好きだよ
・わたしたちにもできることがたくさんあるね

※自身の変容に目を向けるために，単元に入る前に行ったアンケートをもう１度行う。

5　本時の学習（２９／４５）

（１）目　　標

○　外国籍児童がすごしやすい学校にするためには，日本人を巻き込んでいく活動も必要であることに気づき，今の自分には何ができるか考えることができる。　　【学びに向かう力，人間性】

（２）個をいかした指導の手だて

前時では，外国籍の下級生にとってもすごしやすい学校にするためのアイデアを考えた。本時では，グループで考えた意見をもとに学級全体で話し合うことを通して，自分たちにできる最善のアイデアを考えていく。話し合いの場面では，まず「外国籍の子が困っていたら教えてあげたい」と考えているＡ男を指名し，外国籍の下級生への直接的な支援を出していく。また，外国籍児童であるＢ子の「私が通訳するよ」という意見を引き出すことで，外国籍児童の６年生の力が必要となる場面があるのだと気づけるようにする。さらに，Ｃ男の「外国籍の子だけでなく，日本人にも広めていく必要がある」という意見をもとに，日本人に広めることも外国籍児童にとっての支援となることに気づかせたい。本時を通して，外国籍児童がすごしやすい学校にするために，今の自分にできることを考える姿を期待している。

（３）展　　開

時間	学習活動　　☆外国籍児童の意見　　※教師支援	評価（方法）
0	わたしにできることは何だろう 〈遊ぶ〉・放課に遊びたい 〈助ける・手伝う〉・困っている時に助けたい 〈話しかける〉・ポルトガル語で挨拶する ○前に遊んだとき，すごく楽しそうだったよ 日本の子も一緒に遊ぼう ○学校で迷ったことがあるらしいから，ポルトガル語で掲示物をつくりたい △ポルトガル語で何というのかわからないよ ○学校で使える言葉を知りたいなほめ言葉を知りたいな フィリピンの言葉も知りたいな △ポルトガル語コンクールはすごく大変だったよ 〈通訳〉 ・外国籍の６年生に通訳してほしい　**☆私が手伝うよ** ・外国籍の６年生の力が必要な場面があるね 〈広める〉 ・いむれっ子みんなで外国籍の子と仲良くなれるようにしたい ○確かに，インタビューに行ったときも外国籍の子同士で集まっていたね 国際の先生はクラスで楽しくすごしてほしいと言っていたよ ぼくたちが卒業したらどうなるのかな ☆わたしも国は関係なくいろいろな子と話すのが好きだよ **・いむれっ子に広めることも大切なんだね**	**※自分にできることかどうか具体的に考えるために，○△カードを使い友達の意見に対して意思表示をするように促す。** ※学校での外国籍児童の実態を知るために，外国籍児童が放課に集まっている写真を提示する。 ※外国籍児童の自己有用感を高めるために，外国籍児童の力が必要な場面があることを確認する。 ※外国籍の下級生への支援を今後も続けるためには，いむれっ子全体の力が必要だと気づけるように，「あなたたちが卒業したらどうするの」とクラス全体へ問う。
20	いむれっ子に広めるにはどうしたらいいかな 〈新聞〉・調べたことをまとめて飾ろうよ 〈集会〉・いむれっ子集会みたいに劇やクイズをしたらどうかな 〈放送〉・お昼の放送でポルトガル語の挨拶を使おう ・フィリピンの新聞もつくった方がいいよ ・全校に広まるからおもしろそうだね ・ぼく，放送委員だからやってみようかな	※さまざまな児童の意見が反映されるように，グループで話し合ったことをホワイトボードにまとめた後，発表する。
30		
40	今日の振り返りを書こう ・日本人のみんなに広めることが外国籍の子のためになるんだね ・通訳することはできないけど，日本人に広めることはぼくにもできるからがんばりたい ☆みんなが頼りにしてくれているからうれしい。通訳をがんばるぞ ☆日本の子が少しでもポルトガル語を話してくれたら，下級生は喜ぶと思うよ	外国籍児童がすごしやすい学校にするために，今の自分にできることは何かを考えている。 （話し合い・行動観察・ワークシートへの記述）